

○国土交通省告示第三百八十九号（最終改正・・・平成二十七年国土交通省告示第四百八十六号）

租税特別措置法施行令（昭和三十二年政令第四十三号）第四十条の四の二第七項の規定に基づき、エネルギーの使用の合理化に著しく資する住宅用の家屋、大規模な地震に対する安全性を有する住宅用の家屋又は高齢者等が自立した日常生活を営むのに特に必要な構造及び設備の基準に適合する住宅用の家屋として国土交通大臣が財務大臣と協議して定める基準を次のように定めたので告示する。

平成二十四年三月三十一日

国土交通大臣 前田 武志

租税特別措置法施行令第四十条の四の二第七項に規定する国土交通大臣が財務大臣と協議して定める基準は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるものとする。

- 一 租税特別措置法（昭和三十二年法律第二十六号）第七十条の二第一項の規定の適用を受けようとする特定受贈者（同法第七十条の二第二項第一号に規定する特定受贈者をいう。以下同じ。）が住宅用の家屋の新築をし、又は建築後使用されたことのない住宅用の家屋の取得をする場合次に掲げるいずれかの基準

イ 評価方法基準（平成十三年国土交通省告示第千三百四十七号）第5の5の5―1(3)の等級4の基準又は評価方法基準第5の5の5―2(3)の等級4若しくは等級5の基準に適合していること。

ロ 評価方法基準第5の1の1―1(3)の等級2若しくは等級3の基準又は評価方法基準第5の1の1―3(3)の免震建築物の基準に適合していること。

ハ 評価方法基準第5の9の9―1(3)の等級3、等級4又は等級5の基準に適合していること。

二 租税特別措置法第七十条の二第一項の規定の適用を受けようとする特定受贈者が建築後使用されたことのある住宅用の家屋の取得をする場合 次に掲げるいずれかの基準

イ 評価方法基準第5の5の5―1(3)の等級4の基準又は評価方法基準第5の5の5―2(3)の等級4若しくは等級5の基準に適合する住宅用の家屋と同程度にエネルギーの使用の合理化に著しく資すると認められること。

ロ 評価方法基準第5の1の1―1(4)の等級2若しくは等級3の基準又は評価方法基準第5の1の1―3(4)の免震建築物の基準に適合していること。

ハ 評価方法基準第5の9の9―1(4)の等級3、等級4又は等級5の基準に適合していること。

三 租税特別措置法第七十条の二第一項の規定の適用を受けようとする特定受贈者が住宅用の家屋について同条第二項第四号に規定する増改築等をする場合 前号イ、ロ又はハに掲げる基準